off Shot

今号の「発問･課題設定をキーに見る　主体的・対話的で深い学び　授業実践」では、本コーナー初の体育の授業を取り上げました（北海道浦河高校　舟田彩一朗先生）。グラウンドに立つのは学生時代以来となることにワクワクしつつ、運動靴に履き替え、取材に臨みました。当日は、誌面用と動画用の２台のカメラが、熱いまなざしで生徒を追いかけましたが、広いグラウンドに生徒が散り散りになってグループ活動をしていたため、大事な場面を逃さないようにと、走り回っての撮影に。編集スタッフも、画面に映り込まないよう、カメラマンと一緒に動き回りました。そんな苦労の甲斐もあって、生徒が試行錯誤しながら学びを深めていく様子を、誌面でお伝えすることができたのではないかと思います。ウェブコーナー「VIEW n-express」で公開予定の授業のダイジェスト動画も、ぜひご覧ください！（渡邉）

電子ブック

VIEWnext 高校版は

電子ブックで閲覧可能です

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年４月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。
HOME →教育情報→高校向け→情報誌最新号

https://berd.benesse.jp

VIEWnext

高校版　2021年10月号

10月15日発刊
（予定）

『VIEW next』高校版は
年６回の発刊です

Reader's VIEW

先生方からのご意見を紹介します

2021年6月号へのご意見

対象を意識したスクール・ポリシーの策定を目指す

スクール・ポリシーを策定する際、難しい言葉や言い回しを使いがちだが、６月号の特集の香川県立高松北中学校・高校が実施したスクール・ポリシーに対するアンケートを見て、中学生や保護者にとって分かりやすい表現を考えなければならないことを学んだ。本校でも、お飾りではなく、対象に伝わることを意識したスクール・ポリシーをつくりたい。

岐阜県立加茂農林高校　渡邉強矢

自校の教育活動をスクール・ポリシーに落とし込む

本校では、グランドデザインの策定や、育成を目指す資質・能力についてのルーブリックの作成、探究学習を起点としたキャリア教育などを実践してきたが、それらの実践の内容と、成果として得られた生徒の変容を、外部にうまく発信していくことに課題を感じていた。６月号の特集を読んで、教育活動をスクール・ミッションやスクール・ポリシー（特にカリキュラム･ポリシー）に落としこむ重要性を再認識できた。校内で、スクール・ポリシーを作成する意義を伝えていきたい。

東京都立南多摩中等教育学校　徳武英人

高校生でも「何かを変えられる」経験の大切さ

校則に関して、生徒や保護者、地域住民から意見をいただくことが増えた。生徒会が中心となり、時代に応じて不要な校則を廃止したり、変更したりしたいが、そのハードルが高く、現状では、生徒が「何も変えられないことを学ぶ」ことになっていると感じる。大人の世界でも何かを変えることは難しいが、６月号の「未来を描く！ 創る！ イノベーティブな生徒たち」で紹介された広島県・私立安田女子中学高校の生徒たちのように、自分たちで校則を見直し、自分たちの行動も見直すという経験は、生きる力につながると思う。

東京都立葛飾総合高校　川島健太郎

授業は生徒が主役

６月号の「主体的・対話的で深い学び　授業実践」で紹介された山梨県立青洲高校の飯室雄大先生の授業は、単なる反転学習ではなく、先生自身が、アメリカで学んだ「スチューデント・センタード・ラーニング」に基づいていることに感銘を受けた。授業は生徒が主役だと分かっていても、そうした授業を実践するのはなかなか難しい。文法の授業を受けた生徒の変容ぶりを読み、私も飯室先生の授業を体験したいと思った。

徳島県立総合教育センター　牧野浩章

これからの時代に必要な金融教育

人生100年時代と言われる中で、経済・金融の面からキャリア形成を考えることは、生徒にとって有意義である。世界では金融教育が行われており、日本はその点において遅れていると感じる。自分の授業でも金融教育の導入を検討中であるため、６月号の「誌上で見学 学びの next」の宮城県・私立常盤木学園高校の取り組みは大変参考になった。

静岡県立静岡東高校　神谷隼基